Nara Women's University

『都城制研究(8)』発刊にあたって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学古代学学術研究センター 公開日: 2014-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 舘野,和己 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/3631

『都城制研究(8)』発刊にあたって

奈良女子大学古代学学術研究センターは、奈良女子大学 21 世紀 COE プログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」（2004～2008 年度）で行ってきた古代都城制研究を、引き継いで実施しています。その活動の一環として、2006 年度から都城制研究集会を毎年開催してきました。本書『都城制研究(8)』は、2013 年２月５日に行った第７回都城制研究集会の内容を報告するものです。同研究集会は、都城制研究会（「大阪上町大地の総合的研究－東アジア史における都市の誕生・成長・再生の一類型－」研究代表：脇田修）と科学研究費補助金基盤研究(B)「古代都城・都市をめぐる環境論」(研究代表者：舘野和己)の２つの研究グループと共同で開催しました。

第７回都城制研究集会のテーマは、「古代都城と寺社」でした。律令制下では、都城を守るのは五衛府のような物理的な武力のみではありませんでした。たとえば藤原京の左京には大官大寺が、そして右京には薬師寺が天皇・国家によって造営され、平城遷都にあたっても、この両寺はほぼその位置を踏襲して新都に移され、奈良の大安寺と薬師寺となりました。このことに象徴されるように、国家は都城に寺院を造営し、いわゆる鎮護国家の仏教によって、都城そして国家の安寧を祈願しました。国家は、都城とそこに基盤を置く天皇権力の安寧・永続を願うための宗教的装置を準備したのです。

それならば、それらはどのように成立し、いかなる様相・特徴を示したのでしょう。こうした問題関心から、第６回都城制研究集会は「古代都城をめぐる信仰形態」と題して、中国や平泉も視野に入れながら、古代都城という場をめぐる信仰の諸形態を総体的に検討したところです。しかし１度のシンポジウムで、全てを明らかにすることは無理です。

そこで今回も同じ問題意識の上に立って、仏教信仰と神祇信仰に絞って検討を加えました。但し、都城には基本的に神社は置かれなかったため、議論の中心は前者となりました。そして前回は十分に取り上げられなかった、各都城遺跡における発掘調査の成果を踏まえながら、議論を行うことにしました。具体的には、難波宮・大津宮・平城京・長岡京・平安京、それに大宰府を検討対象として、各都城・都市遺跡で調査にあたっておられる方々にご報告いただき、議論を深めたところです。本書に収めた８本の論文は、その時の報告原稿を元に、さらに加筆修正していただいたものです。当日ご報告いただき、また貴重な論考をお寄せいただいた諸氏に篤く御礼申し上げます。

今後も東アジアにおける古代都城制の研究を深めるべく、都城制研究集会を継続していく所存です。皆様方のご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2014 年３月

奈良女子大学古代学学術研究センター長

舘野　和己